

新潟内部障害リサーチミーティングの活動 —位置づけと今後—

椿淳裕¹⁾²⁾、森下慎一郎¹⁾²⁾、堀田一樹¹⁾²⁾、井上達朗¹⁾²⁾、
白井信行¹⁾³⁾、梨本智史¹⁾⁴⁾、長濱秀明¹⁾⁵⁾

- 1) 新潟内部障害リサーチミーティング
- 2) 新潟医療福祉大学 理学療法学科
- 3) 新潟臨港病院 リハビリテーション科
- 4) 新潟医療センター リハビリテーション科
- 5) 下越病院 リハビリテーション課

【背景・目的】 内部障害とは、身体障害者福祉法における身体障害の1つであり、心臓機能障害、呼吸機能障害、腎臓機能障害、膀胱または直腸の機能障害、小腸機能障害、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫機能障害、肝臓機能障害が含まれる¹⁾。障害種類別身体障害者数の推移において、内部障害が増加していることに加え、重複障害、特に肢体不自由に内部障害を重複する割合が高い²⁾。内部障害に対するリハビリテーション介入のニーズは高く、介入に寄与できるエビデンスの蓄積も急務である。

内部障害に関する日々の疑問の解決やそこから臨床研究へと繋げることを目的として、新潟市および近隣の理学療法士・作業療法士とともに、「新潟内部障害リサーチミーティング Niigata Research Meeting of Rehabilitation for Internal Diseases、ReMInd」と称する会の活動を開始した。

この活動の経緯を振り返るとともに、ReMIndの位置づけや今後の役割等について整理した。

【発足のきっかけとこれまでの経緯】 2015年頃、虚血性心疾患や心不全、慢性閉塞性肺疾患の理学療法に関わることの多い本学卒業生から、自己研鑽と情報共有を目的に、勉強会・学習会の相談があり、一部の卒業生やその職場の希望者4~5名と、月1~2回程度の不定期の活動を開始した。2016年に内部障害を専門とする教員が増えたこと、糖尿病に関する研究テーマを持つ社会人大学院生が入学したことにより、新潟市内の理学療法士に広く声をかけ、曜日を固定した月2回の定期的な活動とした。この時期から参加希望者が増え始め、毎回10名前後の参加があった。2017年には、呼吸器疾患を研究テーマとする社会人大学院生が入学し、ReMIndでの発表内容も、症例検討中心であったものから研究計画の検討に関する発表の割合が増えてきた。2018年からは、内部障害に関する研究を希望する社会人大学院生が2名、フルタイム大学院生が2名入学し、基礎的な研究と臨床研究とが交わる場となることを期待し、フルタイム大学院生も参加することとした。2019年からは、遠方の病院に勤務する社会人大学院生が入学したことから、一部オンラインでも参加できる環境とした。運用しているメーリングリストの参加者は80名近

くとなり、学会発表の予演会など研究ベースの発表が増加してきた。ReMIndのウェブサイトを開設し、SNSによる情報発信も開始した。2020年に入り、新型コロナウイルス感染症への対策として、オンラインで開催することとした。ウェブサイトやSNSの効果もあり、新潟県外（秋田県、神奈川県、兵庫県など）からの参加および発表が可能となり、参加者も30名を超えることも増えた。

本格的な活動を開始してから、ReMIndでのディスカッションを基にした学会発表、論文（国内誌）社会人での大学院入学者数を年度ごとに表1に示す。

なお、本内容に関連する利益相反はない。

表1 ReMIndの活動を基にした業績

年度	学会発表 (全国)	論文（国内 誌）	大学院入 学者（社 会人）
2016	3	0	1
2017	4	0	1
2018	3	0	2
2019	2	1	1
2020	2	1	1

フルタイム大学院生による業績は除く。

【ReMIndの位置づけと今後】 卒業生の研鑽の場としてスタートしたReMIndが、参加者の増加によりリサーチマインドを持つ理学療法士・作業療法士を顕在化することができたと考える。また、大学院進学希望者のニーズとマッチしたことから、会の名称に示す「リサーチ」に活動のウエイトを徐々に移してきた。これにより、参加者が研究を始めるにあたり、最初のステップを踏み出しやすくなったように思われる。一方、フルタイムの大学院生の参加で期待した基礎的な研究と臨床研究との交わりは、今後のテーマと考える。また多施設が参加する点を活かした共同研究が実施できれば、学術的にもReMIndの意義を示すことができると考える。

【結論】 リハビリテーションの1領域である内部障害においては、新潟県内でもリサーチマインドを持つ理学療法士・作業療法士が潜在しており、ReMIndの活動によりそれを顕在化できた。また大学院で研究を行うニーズともマッチした。

【文献】

- 1) 居村茂幸：内部障害系理学療法学，医歯薬出版，第1版，1-4，東京，2006。
- 2) 松尾善美：内部障害理学療法学，羊土社，第1版，27-33，東京，2016。